

国道246号の 安全な自転車利用環境の創出に向けた取組み

国土交通省関東地方整備局 東京国道事務所交通対策課 石山哲也

背景と目的

- バス専用通行帯内を自転車が無秩序に走行
- 自転車と他交通の交錯が危険
- 空間的制約が厳しく拡幅等による機能改善が困難

自転車通行の
整序化が必要

自転車ナビラインの整備と
道路空間の利用意識の変化を
促す取組みを実施

◆プロジェクト位置図



◆道路および交通の状況

- 車線数 6車線
- 最高速度 60km/h(法定)
- 交通量
自動車 26,304台/12h
47,131台/24h
自転車 2,239台/12h
歩行者 2,966人/12h (※1)

◆交通事故の発生状況

- 1キロあたりの自転車関連事故件数は
東京23区内の直轄国道平均の約3倍(53件)
(※2)

◆バス専用通行帯の設置状況

- バス運行本数
朝夕ピーク 20本/時以上
- 規制時間
上り 7:00~9:00(または9:30)
下り 17:00~19:00

※1 H17道路交通センサス

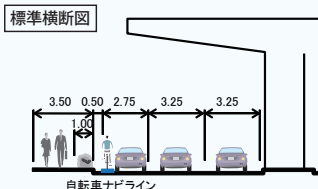
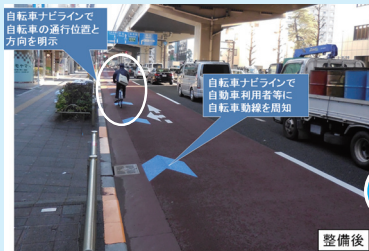
※2 ITARDA事故データ(H22年~H24年の3年間)

整備前の状況



取組みの内容

自転車ナビラインの整備

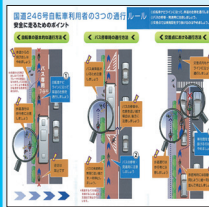


道路空間の利用意識の変化を促す取組みの実施

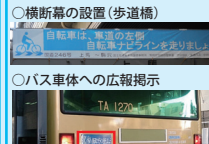
啓発活動の実施



リーフレットの配布



道路利用者への周知



沿道への周知



自転車利用者のナビライン上の通行(整序化)を促進

期待される効果

自転車通行が整序化

安全かつ快適な
通行が可能に

- 自転車の走りやすさ、歩行者の歩きやすさの向上
- 自転車と他交通との交錯機会の減少
- バスの定時性の向上
- 路上駐停車の減少

自転車通行が整序化



安全かつ快適な通行



まとめ

- 今回は、限られた道路空間を賢く利用するために、自転車走行空間の整備にあわせて人々の意識に働きかける啓発活動(コミュニケーション施策)を実施した。
- 今後、自転車等の交通への影響や道路利用者の意識の変化について調査を行い、効果検証を行う。
- 交通インフラの有効利用のためにも、モビリティ・マネジメントが重要と考える。